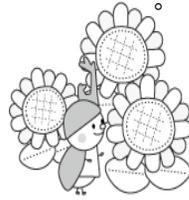




梅雨空に、子ども達が作った色とりどりの七夕飾りが、風にゆれています。

子ども達は雨上がりには外に飛び出し、カタツムリ捕り、水遊び、ドロンコ遊びに興じています。お母様方には、雨空を見上げながら、洗濯に忙しい季節です。

梅雨の晴れ間の日差しはもう夏！汗びっしょりになって遊んでいます。カブトやクワガタが出始めました。空には入道雲が湧き上がり、夏が顔を覗かせ、もうすぐ本格的な夏です。



※今月は、水遊び等夏ならではの開放的な遊びを安全に、そして思う存分楽しみたいと考えています。

行事予定表		
4	月	防犯訓練(職員対象)
5	火	ピヨピヨひろば
6	水	プール写真撮影
7	木	七夕集会/写真撮影 子育てサロン
8	金	笹焼き
15・16	金・土	お泊まり保育(5歳児)
20	水	お弁当デー
21	木	子育てサロン
25	月	交通安全教室(3・4・5歳児)
28	木	誕生会
29	金	避難訓練

保護者会主催の夏祭り(8/20)



いよいよ来月に夏祭りが迫り、役員の方々には着々と準備を始めて下さっています。お蔭様で、お手伝いの方も大分増えましたが、まだまだ募集中です。当日のイベント参加は2歳児以上(にじ・ひかりは自由参加)となりますが、みんなで楽しい時間を共有できたらと思います。

\*夏祭り当日の土曜保育は15時までです。

今月の予定の中から...



●七夕集会・クラス写真撮影(7日)

七夕集会では、歌やパネルシアター等を楽しみ、七夕への興味・関心を深めていけたらと思います。七日の夜は、七夕への思いを馳せながら夜空を見上げてみましょう。どうか晴れますように。

●お泊まり保育(15・16日)

5歳児(ぞうグループ)が保育園でお泊まり保育をする日が近づいてきました。夕飯と朝食の食材を買いに、電車に乗って西友に行きます。食事は、子ども達が話し合い、飯盒炊飯とぞうグループ特製スープに決めました。ぞうグループの旗製作や、キヤンドル作り等...当日に向けて気持ちを高めていきます。

●交通安全教室(25日)

今月からは、3歳児以上の子ども達も参加します。今回は、信号の見方・渡り方をパネルシアター等で楽しく学びます。子ども達の学びが実際に活かされますように。

●誕生会(28日)

ぞうグループもエスコートキッズをする中で誕生児(相手)の事を考えて行動している姿が見られます。誕生会を見学したい方はどうぞお声かけください。

☆お願い☆お知らせ

☆送迎の際の車の順路を守っていただいていますか？

・正しい順路は青果市場の信号より入り、帰りも同様に青果市場脇を通る順路です。園庭下の(つつじが丘保育園までの)道は近所の方のご迷惑になりますので通らないようにしてください。また、送迎の際に青果市場沿いの道路には駐停車しないようにご協力ください。

☆夏場も保育園に履いてくる靴は、運動靴(足に合った物)をお願いします。

戸外で沢山遊ぶ子ども達には、クロックス、サンダル等足のつま先、かかとの出るものは不向きです。

★調理師の岡本真紀さんが6月末に退職しました。今まで有り難うございました。

未来への投資

こども園法の施行から一年が過ぎ、市町村によって、大きな差が出ている。保護者負担の軽重だけでなく、規則の運用、施設型給付の中味について、市の姿勢に違いがある。例えば延長保育や土曜日保育に、たった一人の子であっても、有資格の保育士を二人付けなければ給付は受けられず、しかも給食まで提供するようにと言う市町村がある。一方で、有資格者一人と無資格者一人の二名でも良いとする市がある。現実には無資格者の中には、子育てが終わった優秀な人が大勢いる。保育者の手もつと必要な乳幼児数と保育士の数は、規程では満一歳以上では六人に一人の保育士となっているが、こんな無理な数を緩和しようとしている。保育室等の一人当たりの面積も狭くしようとしている。保育環境を悪くするばかりで絶対に許されない。現場を知らない

官僚が規定を作り、それを金科玉条のごとく守ろうとする地方の役人がいる。規定にしがみつく一方で、単に親が働けるように預け先を増やすため、基準を緩め、環境を悪化させている。この国の行く末を思い暗くなる。▼就労の有無に関わらず、保護者の子育てに関する負担を軽減し、全ての子どもに質の高い保育を保障するということも園法の理念に賛同したが、こども園制度に翻弄されている。なんだか幼児教育が楽しくなくなってきた。自由闊達に幼児教育に情熱を燃やし、子ども達と伸び伸びと戯れていたのに、給付金に縛られ、規則に拘束されることになってしまった。保護者への直接助成の方が有効である。活力を生むのは規則等の拘束を取り除き、自由な活動を保障することである。独自の建学の精神と理念に従い、運営は保護者との自由な直接契約による、と思っていた。国、行政は子育ての重要性を認識しているとは思えない。資源無き日本にあるのは、人的資源のみである。不況の原因は明るい将来のビジョンが見えないからと言う。子どもは国の未来である。▼ノーベル経済学賞を受賞したヘックマンは「就学後の教育の効率性を決めるのは、就学前の教育にある」と述べ、そこで、ペリールスクールの研究結果をあげ、幼児教育を受けた子と、そうでない子の差について述べている。四十歳の時点で、収入に四倍の差、犯罪率・生活保護受給率も低く、個人の生活ばかりでなく、社会も安定する。就学前教育の社会全体の投資収益率は15%〜17%と、通常の公共投資ではありえないほど高い。どこに投資すべきなのかは、明らかである。

理事長 浅田 精利

